

平成20年度ピナトウボボランティア報告

協会では、ピナトウボ奉仕活動の助成をしています。この助成を受けてピナトウボでボランティア活動をしてきてくれた加藤ゆりさんが寄稿してくれました。2月25日から3月14日までの2週間のグダ滞在でした。

フィリピンで学んだこと 加藤 ゆり (大学4年)

むせるほどの暑さと、色彩豊かなこの国、フィリピンへの訪問は2年ぶり、4回目。しかも今回は1人で来た。ホームステイ先は前回と同じルのお家。庭先にジャックフルーツが実り、のんびりとした日々を送る、まるでムーミン一家みたいな家族。

今回の訪問目的はより多くの人と交流すること。グダの小学校・高校、ポーラックのカトリック高校、ボデガの養護施設などを巡り日本について紹介をする。一緒に折り紙を折ったり、日本の小学生に手紙を書いてもらったり、日本の童謡「ふるさと」を黒板に書いて一緒に歌ったり、「あっちむいてほい」を紹介して優勝した子に賞品をあげたり・・・私が日本から持って行った物はほんのわずかで、それでも私の訪問を心から喜んでくれ歓迎してくれた。(4ページに続きます)



ボデガの児童養護施設で筆者と子どもたち

20年度、協会はこんなことに取り組みました

国際交流セミナー

4月13日の総会の後、「日本語でしゃべろう～外国人による日本語スピーチ～」と題するセミナーを開催し、近隣に在住の8人の外国人が「ここが変だよ、日本」「日本人に言いたい！」のテーマで熱弁をふるいました。来日直後の頃のエピソードや、言い違いの失敗談など聴衆の笑い と 涙を誘いました。審査員の飯尾歩さん（中日新聞論説員）、内藤洋子さん（エッセイスト）、滝リンドアさん（中部フィリピン協会会長）からそれぞれユーモアある賞が贈られました。



こいのぼり作り

恒例となっている『こいのぼり作り』は5月24日（土）と25日（日）の2日間に渡り実施しました。海外から、メキシコ、ドイツ、カナダ、中国、韓国等の人々と留学生（名古屋芸術大学）の参加もあり、国際色豊かとなりました。中島屋織店の御主人らの指導の下、初日は下絵を描き、2日目は『のり置き』と『染付け』の作業を悪戦苦闘しながら行いました。参加者は子ども時代にかえり、楽しく過ごしました。日本人にとっても、このような『こいのぼり作り』はなかなか経験することが難しいと思います。海外の人々との交流をとおして、このような貴重な経験ができることは、素晴らしいことと思います。

マレーシアのタベ

総勢52名のマレーシアからの一行が11月27日から30日まで岩倉に滞在し、その間、お祭り広場でのイルミネーション点灯式に、素敵な踊りで華を添えてくれました。メンバーは、中学生海外派遣事業でお世話になった学校の生徒やマレーシア観光のPRをするためのダンサーたち。

彼らの岩倉への訪問は、今回で3回目。昨年に引き続いての顔も多々あり、久しぶりの再会と、希望の家で彼らのお世話をしながらの「どっぷりマレーシア」の4日間となりました。



外国人無料健康相談会

3月29日、外国人の為の無料健康相談会を開催しました。特定非営利活動法人外国人医療センターや岩倉団地自治会の協力で実施したものです。健康や体調に不安を持ちながらも言葉や費用のことが気がかりで日ごろ医療機関にかかれない外国人が相談に訪れました。

人に出会う旅・番外編

昨年秋、ピナトゥボ交流訪問でお世話になった医師ボトンさんから「心臓病で亡くなる人が増えている。心電図測定器（ECG）がないでしょうか」とのEメールが届きました。一昨年12月にホストとしてお世話になったタイクスさんも心臓麻痺で急逝されており、何かできないかと調べた結果、測定器は現地で、10万円程度で購入できることが分かりました。そこで、協会では寄付を募り、現地でECGを購入し贈ることとし、12月28日から30日まで、3人（三浦、山田、古田）がフロリダブランカ市を訪れました。30日朝、フロリダブランカ市庁舎前で式典が行われ、山田さんが「私たちの友人であるフロリダブランカ市民のために役立ててもらいたい」と英語でスピーチ、市長とボトンさんへECGを贈ることができ、タイクスさんのお墓に花を手向けることもできました。



中学生海外派遣事業

8月22日～30日の9日間、岩倉市内の中学生14名がマレーシアでの海外派遣に参加しました。テメロー市内にあるホームステイ村の方々の温かい歓迎から始まり、ホームステイ先でのホストファミリーとの心温まる交流や、SMK メンタカブ校の生徒たちとの交流、ゾウ保護区でのゾウ乗り体験など、どれも現地でしか味わうことのできない心に残る貴重な経験となりました。



世界のお惣菜

7月 バングラディッシュ料理…チキンカレー、グリーンサラダ、キャベツコロケ。バングラディッシュの衣装を着たナハー・カモルモヌさんが講師でした。

10月 イラン料理…ホレシュエバーミエ、サラダシーラーズイ、ドゥーグ。協会でも顔なじみのキャリム夫妻が講師でした。

それぞれの国の講師が、私たちの口に合うよう、また、各家庭でも手に入るような食材でレシピを考えていただき大変参考になりました。



ふれ愛まつり

11月8、9日のふれ愛まつりに出店しました。20年度は、今までの世界の料理からちょっと趣向を変えて、世界のお菓子と飲み物、雑貨。マレーシア、フィリピン、韓国、タイ、メキシコのお菓子とフィリピン、メキシコ、タイのビール、フィリピンのジュース、マレーシアの調味料とパティックを販売しました。それぞれの国にいる親戚に頼んで送ってもらったり、実際にその国へ行ったときに買ってきてもらったりした本当の直輸入品ばかりを並べました。民族衣装を着た中学生ボランティアの元気な声を覚えていらっしゃる方もきっといることでしょう。今年のふれ愛まつりでも、ぜひお会いしましょう。



「フィリピンで学んだこと」

(1面から)の続きです...

「ふるさと」を一度で覚えてしまうグダの小学生の子どもたち。始めは恥ずかしがってなかなか話してくれなかったけれど、最後は質問の嵐でみんな目を輝かせながら話を聴いてくれる。折り紙の折り方を教えた時も、先生たちがおもしろがって、「もう一個教えて」とねだってくるくらい!!

教えるばかりでなく、本当にたくさんのことを教えてもらった。



グダでの筆者を囲んで楽しい食事会

今回の訪問でタガログ語(フィリピンの公用語)の短い歌を2曲教えてもらい、簡単な挨拶や相手

を褒める言葉、一番使ったマニヤマン(おいしい)、タガログ語でカウントすること。出会う人みんなが私の先生。フィリピン式の告白の仕方まで教えてくれるしまつ(笑)一番お世話になった現地のお医者さんのボトンの保健所では、フィリピンの売春事情なども詳しく知ることができ実際に売春をしている女の子とも知り合えた。子どもを育てるために仕方なく自分自身を売っている。父親はいなく、それでも子どものために働く術を売春に求める悲しい現実。決して裕福ではないフィリピン



小学校での授業風景

ンという国の実情を見た気がした。とにかく現地の人と同じことを!これが今回の私のモットー。ご飯は手で食べ、朝は6時に起きる。洗濯は洗濯板を使い、イスに座ってのんびりと過ごす。22歳という時期に本当に貴重な体験をさせてもらえた。心温かな人々のたまり場フィリピンの人たちと岩倉の国際交流協会の皆さん、本当にありがとうございました。

会員継続手続きと新会員募集

当協会は会員の会費で運営しています。平成21年度の会員継続手続きをお願い致します。下記口座に振り込んでいただくか、お近くの協会役員にお申し出ください。新規会員も募集しています。

振込先銀行支店名 いちい信用金庫愛北営業部 普通預金 1016300

口座名義人 岩倉市国際交流協会 内藤和子

金額 家族会員3口(3,000円)以上、ジュニア会員1口(1,000円)以上、
団体会員10口(10,000円)以上。一口は1,000円です。

問合せ先 内藤(0587)66-7347・中山(0587)66-8573

会報 COM第62号(2009年4月15日) 事務局 〒482-0021 岩倉市新柳町3-21-2(内藤方)

発行 岩倉市国際交流協会

TEL・FAX 0587-66-7347

印刷 大橋印刷

http://www.iies.info/